

業 種	海運(旅客)
取組分野	社内情報伝達及びコミュニケーションの確保
テーマ	情報伝達及びコミュニケーションの確保に関する取組み
取組の狙い	経営管理部門による積極的な訪船活動や、社内報、社内速報の発行等により輸送の安全に必要な情報の共有の充実を図る。
具体的内容	<p>(株)名門大洋フェリーにおいては、経営トップ・安全統括管理者をはじめとする経営管理部門が、輸送の安全の確保に必要な情報を共有するために、経営会議、部店長会等の会議体を活用するだけでなく、次の取組みにより、さらなるコミュニケーションを確保しています。</p> <p>特に、経営トップは、自社の誓いである「安全はフェリー事業の命である」との考えのもとに、訪船・乗船の際は、車両の荷役作業・出入港作業・機関室などを視察し、輸送の安全を確保するため、船長・機関長をはじめとする全乗組員とのコミュニケーションの充実を図っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営トップが、本船で毎月開催する船内安全衛生委員会にオブザーバ出席するなど、経営トップ自らが頻繁に訪船活動を実施。 2. 経営トップを含む経営管理部門は、1月に4～5回の訪船、1～2回の乗船を実施。 3. 社員が大阪～北九州間を移動するときは、社船を極力利用することとし、乗船中に気づいた安全、サービスなどに関して、業務乗船報告書を作成して報告。 4. 3カ月に1回発行する社内報「瀬戸だより」に加えて、会社の損益、人事等も記載した社内速報「かわらばん」を発行し、風通しの良い環境を醸成。 5. さらにCSR・法令遵守の観点から「提案箱」を設けて、現場から経営トップに直接上申できる仕組みを確立。



平成19年度定時株主総会開催

当社の平成19年度定時株主総会は、平成19年6月28日(土)、本社会議室において開催されました。平成19年度の事業報告や決算報告、株主総会決議事項の報告が責任をたもつた議長が、取締役の承認を経て行われ、株主総会決議事項が議決され、承認されました。



代表取締役社長	岡田 晋光
代表取締役専務取締役 社長補佐	岡田 晋二
専務取締役 企画管理部長	正 藤 隆一
専務取締役 (兼 常務)	高田 晋一
専務取締役	藤田 晋一
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋二
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋三
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋四
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋五
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋六
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋七
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋八
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋九
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十一
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十二
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十三
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十四
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十五
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十六
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十七
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十八
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋十九
専務取締役 (兼 常務)	藤田 晋二十

代表取締役	藤田 晋一	藤田 晋二	藤田 晋三	藤田 晋四	藤田 晋五
専務取締役	藤田 晋六	藤田 晋七	藤田 晋八	藤田 晋九	藤田 晋十
専務取締役	藤田 晋十一	藤田 晋十二	藤田 晋十三	藤田 晋十四	藤田 晋十五
専務取締役	藤田 晋十六	藤田 晋十七	藤田 晋十八	藤田 晋十九	藤田 晋二十
専務取締役	藤田 晋二十一	藤田 晋二十二	藤田 晋二十三	藤田 晋二十四	藤田 晋二十五
専務取締役	藤田 晋二十六	藤田 晋二十七	藤田 晋二十八	藤田 晋二十九	藤田 晋三十
専務取締役	藤田 晋三十一	藤田 晋三十二	藤田 晋三十三	藤田 晋三十四	藤田 晋三十五
専務取締役	藤田 晋三十六	藤田 晋三十七	藤田 晋三十八	藤田 晋三十九	藤田 晋四十
専務取締役	藤田 晋四十一	藤田 晋四十二	藤田 晋四十三	藤田 晋四十四	藤田 晋四十五
専務取締役	藤田 晋四十六	藤田 晋四十七	藤田 晋四十八	藤田 晋四十九	藤田 晋五十

取組の効果	経営管理部門による積極的な訪船活動や、社内報に加えて、会社の損益等の経営状況を記載した社内速報を発行すること等により、乗組員に対する会社一丸となった安全に関する意識付けの強化と輸送の安全に必要な情報の共有の充実につなげている。
事業者名	(株)名門大洋フェリー・大阪市西区江戸堀1-9-6-2F (連絡先:船舶部 電話:06-6449-7157)